

# イバダイ・ビジョン2030 と 第4期中期計画 及び アクションプラン

「自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現のために」



■ 世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追求 ■ 多様な主体を結びつける結節点としての機能強化 ■ 持続可能な環境づくりのための先進的行動の展開

第4期中期計画( # )	← イバダイ・ビジョン2030のアクション(AC#) →	アクションプラン(AP#)
	<b>AC 1</b> 社会・世界に開かれたキャンパスを構築し、多様な価値観の交差により新たな価値観が生み出される学びの場を提供します。	①【多様性を活かす学修環境の構築】 ②【多様性を支えられる教職員の充実】 ③【図書館の学修環境整備】
(3)【分野横断型の学位プログラムの整備】	<b>AC 2</b> 社会の変化・ニーズに柔軟に対応しながら、学修者の個性と可能性を伸ばし、挑戦を支え、成長を実感できる教育を提供し続けられるシステムを構築し、進展するデジタル技術を活用して教育方法を改善していきます。	④【質保証システムの深化と効率化】 ⑤【エンロールメント・マネジメントの高度化】
(4)【学びの幅を広げる学修環境及び教育改善による人材育成】		
(5)【社会人のキャリアアップ支援】		⑥【キャリア支援及びキャリア教育の充実】 ⑦【アドミッション・マネジメント体制の構築】 ⑧【附属学校園改革の推進】
(6)【研究環境の整備による研究力の底上げ】	<b>AC 3</b> 初等・中等教育からの「連続性のある学び」を展開するとともに、リカレント教育による「生涯にわたる学び」を提供します。	⑨【全学的な研究マネジメントによる卓越性・多様性の追求】
(11)【研究設備・機器の共有化】		
(7)【社会課題の解決に向けた実践的研究の推進】		⑩【世界水準の研究拠点の形成】
(1)【地域ステークホルダーとともに創る教育・教育改革推進体制の強化】	<b>AC 4</b> 研究マネジメントと研究環境の改善、教員の自由な発想に基づく研究と分野横断・融合的な研究により、総合大学として研究力の強化を図ります。	
(2)【地域課題・ニーズを踏まえた産学官連携の強化】		
【再掲】(1)【地域ステークホルダーとともに創る教育・教育改革推進体制の強化】	<b>AC 5</b> 産業界や地域社会との連携を強化し、SDGsやカーボンニュートラルを目指す社会の課題解決に向けた研究や研究成果の社会還元を推進します。	
【再掲】(2)【地域課題・ニーズを踏まえた産学官連携の強化】		
【再掲】(1)【地域ステークホルダーとともに創る教育・教育改革推進体制の強化】	<b>AC 6</b> 環境科学分野と量子線科学分野をはじめとする特色ある研究分野において、さらに世界水準の研究拠点となる取組を進めます。	
【再掲】(2)【地域課題・ニーズを踏まえた産学官連携の強化】		
(8)【内部統制機能の実質化と外部知見の活用】	<b>AC 7</b> 研究の知見と構成員の行動力を活かし、地域の住民と共に社会の持続的発展のための活動に取り組めます。	
(9)【法人経営人材の計画的育成】		
(10)【施設の有効活用及び施設の戦略的整備・維持】	<b>AC 8</b> ICTも存分に活用しながら海外の多様な研究者や学生との交流拠点としての機能強化を図り、教育研究の国際化を進めます。	【再掲】①【多様性を活かす学修環境の構築】 【再掲】⑩【世界水準の研究拠点の形成】
(12)【安定的な財務基盤の確立に向けた経営資金の強化・多元化】		
(13)【財務IRの活用による学内資源の戦略的配分】	<b>AC 9</b> 強固な経営基盤確立、社会の変化に対応した組織編成と戦略的な資源配分、デジタル技術の活用を通じて、持続可能な運営を行います。また、国内外の機関との機能的連携を強化し、それぞれが強みを活かしながら相互補完できる態勢を作ります。	
(16)【スマートユニバーシティ構想の実施】		
(17)【情報セキュリティ確保に向けた取組】	<b>AC 10</b> 情報公開、多様なステークホルダーのエンゲージメント向上、大学プランディングを一体的な目標として捉え、大学内外での戦略的・先駆的なコミュニケーションの強化に努め、地域・社会に信頼される大学運営を行います。	
(15)【ステークホルダーとの戦略的コミュニケーション】		
(14)【内部質保証体制に基づく自己点検評価の実施とエビデンスベースの法人経営】	<b>AC 11</b> 教育・研究・管理運営の全般について恒常的な点検・評価及び改善(内部質保証)を行います。	
	<b>AC 12</b> ワーク・ライフ・バランスの推進、適切な人事評価と処遇への反映、処遇の全体的向上、教職員の交流活性化と協働により、教職員が意欲を持って働き、活躍・成長できる組織となります。	⑩【教職員が誇りを持って活躍・成長できる組織づくり】